

RUBeC 演習を終えて

内賀嶋 勇 紀

Yuki UCHIGASHIMA

機械システム工学専攻修士課程 1年

1. はじめに

私は、2016年8月13日から8月28日までの期間、龍谷大学の短期留学プログラムの一つであるRUBeC演習に参加し、アメリカ合衆国カリフォルニア州のバークレー市にあるJodo Shinshu Centerで英語のライティングとプレゼンテーションについて学習しました。また、海外の企業および、龍谷大学の協定校を訪問することで、海外の企業や大学を知ることができました。

2. プログラムの目的

私がこのプログラムに参加した目的は、英語論文執筆のための英文法と英語でのプレゼンテーションスキルについて学ぶためです。また、ホームステイ先の人や現地の人と関わることで、海外の文化・慣習を学び、自身の視野を広げるためです。

3. 授業内容

3.1 テクニカルライティング

テクニカルライティングの授業では、事前に作成した英語要旨を校正するため、技術系文章における基本的な英文法や文の構成方法を学習しました。ライティングの授業の始めには、「Small Talk」と呼ばれる短い会話を行っていました。題目は、「昨日、自分にとって一番の出来事について」でした。この「Small Talk」では、毎回の授業で教わった英文法や文の構成方法を用いることで、内容を覚えるだけでなく、使って話すという実践的な練習をすることができました。また、授業や海外生活等の疑問に感じていることを質問する際に用いる「I have a question about～」等のさまざまな英語の表現を学ぶことができました。多くの表現を学び、積極的に質問

することで、日本と異なるアメリカの文化やマナー等を学習することができ、非常に有意義な時間となりました。文法の授業では、冠詞や受動態について学習しました。この授業では、文の意味に応じた英単語や冠詞を選択することを学びました。文章に含まれている名詞が、一度説明されているか新しく説明するかによって冠詞が変わるため、冠詞は文章作成に重要であることがわかりました。また、論文の作成には、「I」や「We」のような主語を用いないため、受動態をうまく使用することが重要であることがわかりました。以上で学んだことを基に、事前に作成したAbstractの修正を行いました。Abstractの修正は数回にわたり行われ、先生の添削や提案により文章が校正されていきました。このAbstractの校正作業の中で、論文作成に適したパラグラフ間および、センテンス間を結ぶ接続詞を選択する能力が向上しました。また、英語では、曖昧な表現がないため、自身の研究を見直す非常に貴重な経験を得ることができました。

3.2 プレゼンテーション

プレゼンテーションの授業では、英語でのプレゼンテーション能力の上達を目的とし、英語の発音や効果的なスライドの作成方法について学びました。授業では、「th, r, l」の発音方法やWord stressについて学びました。「th, r, l」の発音については、宿題で発音の動画を見て、次の日の授業で舌の使い方を意識した練習が行われたことで、正しい発音に近づけることができました。Word stressについては、「Presentation」等の1 wordが長い単語等のアクセントを調べ、発音の練習をしました。このWord stressが意識できないと、相手が聞き取れない場合や、異なる意味の単語として伝わる危険性があるため、非常に重要であることがわかりました。また、この授業では、スピーチ練習として「Small Talk」や1分間の発表練習が行われました。この練習では、「Eye contact」や「Gesture」の重要性を学びました。スピーチでは、原稿を読むのではなく、聞き

手に話しかけることが重要だと学びました。そのため、聞き手の目を見て、理解しているかを確認し、聴覚だけでなく、視覚からも伝わるように「Gesture」を行う必要があることがわかりました。最終発表に向けてのスライドに関する授業では、1枚のスライドはシンプルにすることを指導されました。具体的には、写真や図は、1枚のスライドには多くても2枚程度、フォントサイズは28pt以上、スライドには文字を多く入れない等の制約がありました。事前に作成した発表資料には1枚のスライドに情報が多く存在していたため、修正には苦労しましたが、相手にわかりやすく説明するには、非常に重要であることを学びました。最終発表では、スピーチ練習の成果により、ほとんどつまることなく発表を行うことができましたが、発表の後半になるにつれ、結果を説明することに集中しすぎ、「Eye contact」や「Gesture」が減少してきたため、今後改善する必要があると考えました。

3.3 協定校訪問

龍谷大学の協定校である UC Davis を訪問したことで、海外の学生の学習環境を学ぶことができました。まず、印象に残ったのは、大学の規模でした。日本の大学の規模と比較すると非常に大きく、校内に道路や信号が設置されていました。また、移動には自転車が必要であることに驚きました。次に、印象的だったことが、学生の学科間の移動が多いことです。日本では、所属している学科を移動することはなく、一つの学科に専念する学生が多いのに対し、協定校では、学生が興味を持った研究に、どんどん変えていることに驚きました。このことを知り、協定校では、学生の自由意志を尊重していることが感じられました。また、学生用の学習室には、壁一面にホワイトボードがあり、学生達のアイディ

アを議論から形にするまでを1つの教室でできると感じました。このように、学生にとって非常に快適な学習環境が整えている大学だと感じました。

4. ホームステイ先での生活

ホームステイ先での生活では、英語に慣れていない滞在初日に、洗濯の日程から夕飯の時間等の生活に必要な事柄の説明を理解する必要があったために苦労しましたが、ホストマザーにわかりやすい英語でゆっくりとはっきり話していただいたため、海外の環境に慣れやすかったと感じました。また、少しずつ英語を速くしていただいたことにより、授業以外でも、英会話の練習になり、非常に良い経験ができました。また、ホストマザーに駅から迎えに来てもらう際、電話を使用していましたが、対話する時とは異なり、言葉のみで相手に伝えなければならなくて苦労しました。実際に会って会話する時は、「Gesture」等で言葉が足りなくても伝わりましたが、電話では「Gesture」が使えないため、海外生活には言葉で伝えることが重要であると感じ、非常に貴重な経験となりました。

5. おわりに

RUBeC 演習を通して、英語論文執筆のために、英文法と英語でのプレゼンテーションスキルについて学習することができました。また、龍谷大学の協定校への訪問やホームステイ先での生活により、海外の学習環境や文化・慣習を学習することができ、海外に対する興味・関心が高まりました。このプログラムにより得られた経験が活かせるように、今後も英語学習を継続していきたいと考えました。また、日本で海外の方と接する機会があれば、積極的に関わりたいと思いました。